

# 書きぶりを読み取り、 学んだことを生かして書こう！

四年(下)二 わたしたちの体について調べよう

「体を守る仕組み」

「これが『わたし』です」

(十三時間)



一 教材文の書きぶりに学ぶ読みを

「読むこと」と「書くこと」の複合単元なので、今回は、書くときに生かすことのできる何かを求めて読ませてみました。

「体を守る仕組み」という教材で、読み手に分かりやすい説明的な文章の書きぶりを学び、この書きぶりを実際に自分で書くときに生かすという点に目を向けるような学習をさせてみました。また、書くことの題材は、他教科・他領域の学習内容や体験の中身を使うことで、新たに時間を費やすことを省くことも工夫しました。

二 「体を守る仕組み」の書きぶり

1 読み手に分かりやすい文章構成

説明文教材「体を守る仕組み」において、子どもたちは、書かれている内容を正確に読み取るために、各段落の要点や段落相互の関係をつかむ学習を進めます。そこで、大きく三つのまとまりで説明する構成の分かりやすさに気づかせます。

話題を読み手に示す

具体的な例を挙げて説明する

話題をまとめる

のまとまりを読むことで、いきなり説明を始めるのではなく、まず何について書いている文章なのかを冒頭で説明することの大切さを学ばせます。

のまとまりでは、読み手の思考に合わせて具体的な例を挙げていくことで、とても分かりやすい展開になることを学ばせます。

のまとまりからは、文章全体をまとめることと文章を読み終える読み手への配慮の必要性を学ばせます。

## 2 読み手に語りかける文章表現

何を伝えたいかという目的意識と、だれに伝えたいかという相手意識を具体化するためには、文章表現にも気をつける必要があることを指導します。教材文の巧みな表現によって読み手である自分と文章との距離を縮めたり、興味・関心を高めたりできることを学ばせます。

「体を守る仕組み」には、読み手との距離を縮める働きをする文章表現が随所に見られます。

「さあ、深こきゅうをしてみましよう。」

読み手に語りかける文で始まる冒頭部分です。

「今、何をすいこみましたか。」

問いかけの文によって、読み手の内容への興味は増します。

「病気の原因になる微生物がふえたら大変ですね。」

読み手に同意を求める表現です。

「白血球をおうえんしてやりましよう。」

読み手に誘いかける表現です。

このような、読み手の気持ちに配慮したり、同意を求めたり、誘いかけたりする表現によって、読み手に対して文章を理解しやすくしていることに気づかせます。

どんな文章表現が効果的に注目させることで、子どもたちがその書きぶりに学び、次に自分自身が書くときに生かしていけるように指導を展開してみました。

## 三 九時間で考えた指導計画

第一次 単元を見通して学習の計画を立てよう

(一時間)

「総合的な学習の時間」に、調べたり体験したりしたことなかで、思いどおりに伝えられなかったことを思い出させ、今回の学習で教材文の書きぶりを学び、自分が書く文章に生かしていくことを確認します。

## 第二次 教材文の書きぶりを学ぼう（読むこと） （四時間）

教材文を段落相互の關係に注意しながら読み進め、  
分かりやすい説明の方法を学びます。

### 第三次 自分の文章を見直す （一時間）

分かりやすい書きぶりを学習した子どもたちに、以前  
発表の際に使用した文章を学習材として意識させます。  
比較して、分かりやすい書きぶりになっていたかどうか  
の発見をさせることは、評価意識につながる視点にもな  
ります。

### 第四次 「ボランティア全集」を作ろう（書くこと） （三時間）

自らの課題を意識しながら、「総合的な学習の時間」  
に書いた文章を、新たに書き直します。より分かりやす  
い文章に生まれ変わったものを、一冊の本にまとめ、学  
校、そしてお世話になった諸機関で読んでもらうことに  
します。

### 四 既習の学習材を活用して「ボランティア全集」を作ろう

第三次で確認した課題を意識しながら、読み手に分か  
りやすい表現を目ざし、段落相互の關係や文章表現を工  
夫します。

### 五 評価について

説明文を読むなかで学んだ、読み手に分かりやすい書  
きぶりが、文章を書くことに生かされているかどうか  
が、評価のポイントになります。以前に書いた自分の文  
章を、今回の学びと照らし合わせることができたか、書  
き直した文章に生かされているかなどを、子どもたちの  
発言や文章から見取っていきます。

○読み手を意識した書きぶりを工夫したか。

（書きだしの工夫・段落の組み立て・文章表現）

○調べたことを分かりやすい言葉で表現したか。

（難しい表現を書き直す・複数の事例を挙げる）

評価項目は、第三次までの学習で子どもたち自身が気  
づいた観点を生かすことで、自己評価能力の高まりや、  
主体的な学び手としての成長が期待できるでしょう。

## 子どもの文章より

### 【書きぶりを工夫する前】

ぼくは、点字ブロックについて調べました。  
点字ブロックがあると、目が不自由な人が歩く  
とき、方向を確かめることができます。黄色くて  
ボコボコしたタイルなので、白いつえや足のうら  
の感覚を使って、そこでこぼした面をたよりに  
して歩くことができます。

交差点や横断歩道の手前には、きちんと分かる  
ように工夫がしてあります。

点字ブロックの上に自転車や荷物が置いてある  
と、目の不自由な人は安心して歩けません。みな  
さんやめましょう。

### 【書きぶりを工夫したあと】

みなさんは、道路にしいてある黄色くてボコボ  
コしたタイルを見たことがありますか。いったい、  
何のためにしいてあるのでしょうか。

それは、目が不自由な人が、道の方向を確かめ  
るためのものです。名前は、「点字ブロック」と  
いいます。聞いたことがありますか。

目の不自由な人は、白いつえや足のうらの感覚  
を使って、そこでこぼした面をたよりにして歩  
くのです。交差点や横断歩道の手前には、きちん  
とわかるような工夫がしてあります。

ときどき、点字ブロックの上に、自転車や荷物  
が置いてあることがあります。そんな道路は、目  
の不自由な人は安心して歩けません。そういうこ  
とがないように、気をつけましょうね。